別添１－１

令和７年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 10 日

札幌市立 星友館中学校

１　今年度の重点目標

生徒が安心できる環境づくり
生徒の学習状況に合わせた、安心感のある授業
生徒の自治的な活動と生徒の声を大切にした、市民ぐるみでの学校づくり

２　本年度の経営方針

生徒の困りや願いに寄り添う教職員
開かれた学校・つながる学校づくり
変化し続ける学校づくり

３　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	成果及び改善方策	自己評価の適切さ	成果・改善策の適切さ
目指す子ども像	自分らしい生き方の実現を目指し、学び続ける生徒	一人一人の願い・学びに応じた教育が充実しているか。	A	年５回の個別面談を通して、生徒一人一人の学習状況や目標を把握し、学習指導・支援に活かした。また、チャレンジコースの国・数・英の習熟度別授業やTT、学習サポーターの体制を整え、丁寧な指導を行った。	A	A
	自分を活かし表現することに挑戦し、共に学び合う生徒	自己表現し、それを認め合う場が充実しているか。	A	文化学習発表会の展示や文集制作、作文発表会など、表現・発表の場を継続的に整備した。生徒が学びや思いを発信し、互いに認め合うことで、自己肯定感を高める機会となった。	A	A
	違いを認め合い、大切にし合える生徒	国籍や年齢など多様さを尊重する雰囲気が醸成されるような取組を行っているか。	A	総合や道徳、ライフスキル学習等を通して、国際交流や多様性理解を重視した学習に取り組んだ。学校生活においては必要に応じて、個別の対応を行い、互いを尊重する姿勢の育成に努めた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		習熟度別授業の取組では「自分自身の力をさらに高める生徒」や「基礎をじっくり学ぶ生徒」など、それぞれのニーズに応えている。文化学習発表会をはじめ学校行事では生徒たちの成長を感じることができた。今までの星友館の方向と実践に間違いはないと言える。				

人間尊重の教育	生徒一人一人が「大切にされている」と実感できる学校づくり	生徒一人一人の様子に気を配り、さまざまな願いや困りに対応できているか。	A	日常的な関わりや年５回の個別相談を通して、生徒一人一人の思いや困りを丁寧に受け止め、個別支援計画に基づく支援を行った。また、行事やその他の活動を通して相互理解を深め、人間尊重を基盤とした安心して学べる関係づくりに努めた。	A	A
「学ぶ力」の育成	「分かる」「できる」「楽しい」授業の推進	生徒の学習状況に合わせた授業の進め方をすることができているか。	A	６つの学習コースを編成し、チャレンジコースでは習熟度別にグループを設定。生徒の実態に応じた段階的な指導を行った。０時間目や長期休業中の講習、学習サポーターの配置により、個に応じた学習支援体制を整えた。	A	A
「豊かな心」の育成	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う指導	卒業後の自立や他者との関係を育んでいくことを目指した取組を行っているか。	A	道徳授業で教科書教材やライフスキル学習を活用。他者との良好な関係について考える機会を充実させた。また、生涯学習カフェテリアやゲームするかい、イドバタタイム等の実施を通して、多様な人と関わり、安心して過ごせる場づくりに努めた。	A	A
「健やかな体」の育成	生涯にわたる健康な体の育成	運動への関心を高め、心身ともに健康な生活を実現しているか。	A	体育の授業やスポーツ交流会、0時間目の活動を通して体力向上を図った。また、ライフスキル学習や生涯学習カフェテリアでも気軽に取り組める運動を取り入れ、生涯にわたり心身の健康を意識する姿勢の育成に努めた。	A	A
いじめ対策	生徒が安心できる環境づくり	教職員間の情報共有と対応を強化し、即時適切に支援できるよう努めているか。	A	いじめ対策組織定例会をはじめ、ＳＣ・ＳＳＷを交えたケース会議や情報交流を定期的かつ迅速に行った。日常の相談や情報共有を通して、教職員が連携し、早期発見・即時対応による組織的な支援に努めた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		「イドバタタイム」や「ゲームするかい」など自分のクラス以外の生徒と交流をもてたことは良かった。道教委主催のオンライン授業をみて、授業の質の高さを感じている。学校としていじめをはじめ様々な諸問題に組織的に取り組んでいることが分かった。今後も早期対応、関係機関との連携に努めてほしい。				

学校独自に設定する分野	生徒の誰もが安心できる環境づくり	A	ＳＣ・ＳＳＷや関係機関と連携し、個別相談や多様な相談手段を通して生徒の困りに丁寧に対応した。少人数体制の授業や日常的な関わりを大切にし、情報共有を密に行うことで、安心して過ごせる学校環境づくりに努めた。	A	A
	特別な配慮を必要とする生徒への支援	A	各コースに学習サポーターを配置し、授業や日常場面での個別支援を行った。個別相談を基に学び計画を作成し、ＳＣ・ＳＳＷとの連携を通して、生徒一人一人のニーズに応じた支援の充実に努めた。	A	A
	生徒の声を大切にした、市民ぐるみでの学校づくり	A	各学年に生徒幹事を配置し、アンケート等を通して全校生徒の意見を集約した。生徒幹事が学校運営協議会の一員として議題提案や熟議に参加することで、生徒の声を学校運営に反映させる取組を進めた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		学習サポーターをコースに固定したことにより、サポーターと生徒の関係構築につながった。ただし、出席率が低いという結果は、全国的にも同じ傾向があるとはいえ残念ではある。学校内だけではなく、生徒たちが多くの人たちと会う機会を増やしていけるように評議員としてできることを考えていきたい。また、学校づくりの「市民ぐるみ」という視点において、学校としての取組の工夫を期待する。			